

火災を知ろう

地震などの災害時はもちろん、日々の生活の中でも火災の危険は常に存在しています。普段から火の取り扱いに注意することが大切です。

火災時の対応

火災に気付いたらすぐに「通報」「初期消火」あるいは「避難」しましょう。状況に応じて優先順位を考えながら、あわてず冷静に行動しましょう。

知らせる



大きな声で「火事だ!」と叫び、周りに知らせましょう。小さな火事でも119番通報を忘れずに。

初期消火



火が横に広がっているうちは消火可能です。消火器や風呂の水、濡れタオルなどで消火しましょう。

避難



危険を感じたらすぐに避難しましょう。避難時は窓やドアを閉め、空気を遮断しましょう。

消火器の使い方

消火器の使い方をあらかじめ知っておき、いざという時にすばやく操作できるようにしましょう。

火元に近づく



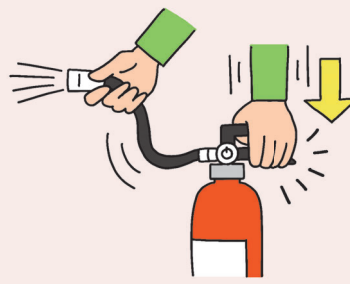
ホースを外して、ノズルを火元へ向けましょう。

安全ピンを抜く



安全ピンを引き抜き、噴射できるようにしましょう。

レバーをにぎる



レバーを強くにぎり、しっかり火元を狙って噴射しましょう。

消火を確認



一度消えたと思っても火種が残っていると再発火する可能性があります。

約12～18秒間薬剤が噴射されるため、最初の10秒が勝負です。

確認しよう! 住宅用火災警報器



逃げ遅れないために

住宅火災の死亡理由の多くは「逃げ遅れ」です。火災を早期に発見できるよう、住宅用火災警報器を必ず設置するようにしましょう。

定期的に点検しよう

月に1回は正常に動作するか確認。乾電池タイプの場合は電池切れに気をつけましょう。機器が寿命(おおむね10年程度)を迎えた場合は交換を忘れずに。

警報が鳴ったら

火元を確認し、大きな声で助けを求めましょう。119番通報をし、可能であれば初期消火を行ってください。火が大きい場合は無理せず避難しましょう。

火災防火いのちを守る10箇条

4つの習慣



1 寝タバコは絶対にしない、させない

決められた場所以外で吸わず、確実に火を消せるよう灰皿に水を入れておきましょう。



2 ストープに燃えやすいものを近づけない

カーテンや洗濯物などを近づけないようにしましょう。給油は火を消してから行いましょう。



3 油で揚げている時はその場から離れない

食用油は350℃程度になると発火します。離れる際は必ず火を止めましょう。



4 コンセントにこまめな気づかい

タコ足配線や、コンセント周りに注意。使わない時はプラグを抜きましょう。

6つの対策



5 ストープやコンロは安全装置付きのものを

火災の発生を防ぐため、ストーブやコンロは安全装置の付いた機器を使用しましょう。



6 住宅用火災警報器は定期的に点検する

火災の早期発見のため、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換しましょう。



7 衣類やカーテン、寝具など防災物品を使用する

火災の拡大を防ぐため、部屋を整理整頓し、寝具や衣類、カーテンは、防災物品を使用しましょう。



8 消火器の使用方法を知っておく

火災を小さいうちに消すために、消火器などを設置し、使い方を確認しておきましょう。



9 避難経路と避難方法を確保して備える

高齢者や身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておきましょう。



10 地域の防災活動に参加する

防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行いましょう。